

みくびびだより

平成14年12月1日
御首神社社務所



御挨拶

謹啓 師走の候、皆様方に於かれましては愈々御健勝のこととお慶び申し上げます。

天皇・皇后両陛下に於かせられては去る七月六日より約二週間に由り、歴史上初の東欧をご訪問になられ、強硬なスケジュールにも拘わらず国際親善への強い御信念を表明なさいました。本来なら政府や国民一人一人がそれぞれの場でないべき仕事を、陛下お一人に異国との交流をあづけてしまっているという現実を認識し、この大御心に適うように国民も東欧の文化・音楽に相互理解を重ねて、新たな歴史を築く努力をすべきであると痛感いたします。

海外では同時多発テロから一年余り過ぎた十月、又してもバリ島で爆弾テロが発生、続いてモスクワの劇場占拠事件で多くの犠牲者が出ました。国内でも株価の低迷・政治不信・北朝鮮の拉致問題など暗い出来事ばかりです。この様な先行き不透明な時代であります。我が国ではノーベル物理学賞と同化学者を同時受賞というかつて無い快挙が成し遂げられました。一昨年の白川氏、昨年の野依氏、そして今回の小柴氏と田中氏、四氏共に出身地は自然豊かな中部圏であるとは偶然と言ひ難いものがあります。

神道は自然を総て神として崇め、その恵みに感謝し、報恩のまことを尽くすところに価値があります。四氏もきつと豊かな自然の中で神々に護られて伸び伸びと幼少を過ごされたことでしょう。

当社も年末を迎え迎春の準備に追われております。今回の社報にも御案内して御座いますが、毎年神職及び氏子によって大鳥居等の注連縄を奉製しております。今年から神職が手作りで調製した、守護縄を頒布することになりました。ご家庭の神棚や、ご使用の車両にお受け頂き、大神様の御神徳を戴かれますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様方には益々の御健勝とご多幸を祈念致しましてご挨拶とさせていただきます。

宮司 二浦 篤

『お金の質』

人間がこの世で生きてゆく為には、衣食住が必要であることは当然であり、それを整える基はお金であります。物質といい、お金といっても、結局はこの世を生きてゆく上での一種の道具であり、言い替えば大人の玩具（例えば悪いかも？）のようなものですか。生きていく間の玩具だと軽い気持ちで扱えばよいものを、どうでも自分のものにならなければ収まらないとか、一生涯食べてゆけるだけのお金を早くつくりたいと思うから玩具が玩具でなくなり、精神的負担に苦しみ、時には犯罪まで犯したりする例が多くあります。

こういう「もの」とか「金」を何でも自分のものにしたというような心を執着心と言います。この執着心は、人間に楽しみを与えることもあるが、それに縛られて、自分で自分を苦しめてゆくことも確かであります。



大体今の世の中は世知辛く、他人の幸福を考えてやるような豊かな心や、ゆとりをなくしている人が多い。自分さえ物やお金に恵まれたらそれでよい。他人のことなどかまっておられるものではないという人が大半だと言えるでしょう。経済観念が發達すると共に我欲に捕らわれた人を多くつくっているのです。

お金や物質は人間を幸福に結びつけるものではありませんが、同時に不幸にも結びつけるものです。お金や物質がそういう性格を持っているのではなく、それにまつわる人間の態度や心によって幸・不幸に分かれてゆくのです。

人間社会の仕組みは、総て入れることと出すことの両面から成り立っています。銀行でも金を預け入れる人と借りる人と両方あるし、人間の身体でも息の出し入れから、食物にしても毎日食べては毎日排泄をしているから健康で過ごせるのです。もし食べる一方で出すことがなかったら、人間は今頃鯨や恐竜のように大きくなっていくのではないだろうか。しかし実際は食べた分から栄養分だけを吸収して、残りの不要分を出しているのです、大体一定した体重を保持できるのであります。

お金も食物と同じことで、毎日入って毎日出てゆくのが自然ですが、サラリーマンの多い現在では、毎月決められた日に入ったお金を毎日使っているのですが、何れにしても入れることと出すことの両方をやっていることには違いありません。ところが現代の多くの人は、お金を自分のものにするにはすこぶる熱心であり、出すことにはあまり関心をもたない人が多い。これでは片手落ちというもので、アンバランスであります。

人間は貪欲なので、何でも多く手に入れる程幸福になれると思ひこんでいるから、お金や物を手に入れる為には手段を選ばないということになり易いのです。これはお金の量だけを見ている訳で、同じお金にも質の善し悪しがあります。どんなにお金が多くあっても、質の悪いお金なら結局は身につきません。お金は目に見えるので、貯金をすれば増えてゆくことは誰でも分かる。貯金が増えたと共に

何かほかのものも増えて行っってはいないだろうか。実はここが大切などころなのであります。他人を泣かせたり、無理をして自分のものにしたお金には、人を騙したり泣かせたりした分も余分にくっついてくると思う。これは目に見えないが無視してはならない大事な点であります。目に見えないので仮にこれを「チリ」と表現しますと、お金が増えると共に「チリ」も増えるわけで、貯金をゼロにしても「チリ」の分だけは残ることになり、質の悪いお金だということになるのです。

神さまの世界から見ると、人間の持つお金や物が幸福に結びつくかどうかは、お金の量よりもその質、即ち「チリ」が多いか少ないかによって決定されるのです。

お金が貯まったので家を新築したところが火事になったり、子供が不良になってしまったという事が起こってくれば、これはお金の質が悪かったためであり、無理をして集めたお金であるから無駄なところへ出てゆくものなのです。質のよいお金なら決してこのようなことは起こらないでしょう。これは神さまがそのように収支決算をして人間に見せておられるのだと理解するのが賢明でしょう。

人生は長い旅と同じで、途中で暑い夏もあれば寒い冬もある。だからといって最初から春夏秋冬の支度をして出発したら、重くて途中で倒れてしまう。人生は身軽に過ごす方がむしろ身体が自由がきいて楽しいものです。極端な貧乏はよくないが、一生に必要な以上のものを最初から無理して集める必要はなく、その時々に必要な分だけ入ってくれば、それで幸福だといえるのではないのでしょうか。

身体が健康で心が強く、働きさえすればお金は必ず入ってきます。物やお金に執着することより、丈夫な体と神さまに好まれる心づくりの方が大切なのであります。この世の一切は神さまのもので、物もお金も人間が生きている間だけ管理をまかされているのです。

私たちは限られた人生で、少しでも質のよい「もの」や「お金」を使わせてもらい、次世代にバトンタッチをしたいものです。

禰宜 上松 雅之

ちよつと一言

今回はお参りの仕方について一言申し上げます。

一口にお参りと言ってもその形は様々です。拝殿前で軽く頭を下げるお参りや、大祓詞を奏上される人又、正装で昇殿しての正式参拝等いろいろありますが、今回は皆さんが最も身近に感じられる拝殿前のお参りを取り上げてみます。

まず境内に入る時は身を引き締め、私語を慎みます。そして鳥居をくぐり、手水舎では手と口を漱ぎ、心身を清め拝殿に向かいます。拝殿前では中央を少しずらし（中心は神様の通り道と言われている）お賽銭を入れ、鈴があれば軽く鳴らし、姿勢を正して二度深く頭を下げ、続いて二度拍手をします。この時両手を合わせ、御礼や願い事を申し上げ、再度深くお辞儀をします。これがごく一般的なお参りの仕方です。（二礼二拍手一礼）

尚、当神社の拝殿前には御神酒の入った壺（瓶子）があり、毎朝お出しして、参拝者に召しあがっていただいております。しかし乍ら、量に眼りがあ

る為早々に無くなるのが現状です。

誠に申し訳なく思っておりますが、一人でも多くの参拝者にお呑み頂くためにも、白い皿（かわらけ）にて少しくお呑み頂きますようお願い申し上げます。

権禰宜

大野 弘樹



祭事報告

▼西宮神社例祭(相殿) 七月十七日午後三時

▼末廣稲荷神社例祭 八月 四日午後三時

▼夏越大祓 八月四日午後三時半

当日は猛暑にもかかわらず多くの御参列を得て、日々知らず知らずのうちに受け犯している罪や穢・災厄を払い清める神事を、厳粛に斎行いたしました。

引き続き、お祓い所役を先頭に官司以下祭員・総代・一般参列者の順に茅の輪をくぐり、皆様方が諸々の罪・穢を託された人形(ひとがた)を忌火でもってお焚き上げいたしました。

▼長寿祈願祭 九月十五日午後四時

大垣市宇留生地区の長寿会連合会を初めとして、氏子区域内に住まわれる七十歳以上の方々に参列を頂き、益々の健康長寿を祈願致しました。

▼神明神社例祭 十月十七日午後三時

▼七五三参り 十一月一日〜三十日

七五三参りは、古来より受け継がれている人生儀礼の一つで、子供の成長に節目をつけ、これまでの無事成長を神様に感謝申し上げると共に、今後の健やかな成長を願うものであります。

十一月に入りますと晴着を着飾った大勢の子供達が、両親や祖父母に連れられ、緊張の面持ちで御祈禱を受けてゆかれました。



特に十一月十日の日曜日にはぬいぐるみと遊んだり、恒例となりましたコリントゲームに夢中になる子供達で終日賑わいを見せておりました。

▼崇敬会大祭 十一月 三日 午後二時

年に一度の御首神社崇敬会会員のための祭典です。

本年も全国各地から多くの崇敬会員の御参列を得ました。参拝者には昇殿していただき、一人一人のお名前を大神様の大前にてご報告して皆様の無病息災・生業繁栄・家内安全そして子孫繁栄を祈願祈禱し、最後に金幣を奉って頂き祭典を終えました。

▼新嘗祭

十一月二十三日午後三時

権禰宜 大島 洋紀

正月用守護繩の頒布

当神社では、毎年大鳥居を始め拝殿・稲荷神社鳥居等に掲げる注連繩を奉製致しております。その同じ藁を用いまして、神棚用と車両用の守護繩を調製いたし、皆様方のご家庭にも(お祓いして)お頒ち致します。奉製の都合上、数量を限定させて頂きますので悪しからずご了承下さい。

ご希望の方は十二月二十日迄に、電話又は社務所に直接お申し込み下さい。尚、郵送ご希望の方は郵送料を別途お送り下さい。



正式参拝について

正式とは、広辞苑によると「簡略でない正規の方法」とあります。

裁判でも正式裁判と略式裁判があり、式次第でも正式と略式があります。そういった場所に出かける場合は、それぞれに相応しい服装になると思います。

ほとんどの人が、日常の服装はラフな姿で過ごされますが、少し改まった場所へ出かける時には、それなりの服装に着替えられると思います。ましてや憂い事・お祝い事に出席される場合は尚更服装を正されますし、相手に対して敬意を表わすことにもなります。

服装の乱れを整えれば自ずと心が引き締まり、それが態度に現れて、人格も向上するといふものです。

神道では清浄を最も尊びますので神社に於いての参拝でも同様のことが言えます。

例えば伊勢神宮での正式参拝は、一般の参拝とは異なり、垣根の内側での参拝でありますので、神様にご無礼の無いようにと云うことで「男子は背広・ネクタイを着用、女子は不敬に亘らない服装」の内規があります。

一般神社でも正式参拝は、御神前近くで特別の参拝をされることでありますので、身も心も清めていただきましてご参拝頂きますようお願いいたします。

勿論神職で神明に仕える者は、「齋戒に關

する規程」を厳格に守りご奉仕申しあげております。

当社に於きましても、崇敬会会員の方々を始め、全国各地よりご参拝を頂いておりますが、特に正式参拝は諸祈願の御祈禱とは意味を異にしていますので、服装を整え心身を清浄にして厳肅な気持ちで参拝され、大神様の御神徳を戴いて下さい。

尚、団体で正式参拝される場合は準備の都合上、予め社務所までご一報頂きますようお願い申し上げます。

権禰宜 高田 豊彦



崇敬会入会のご案内

御首神社の御神徳に感謝し当社を崇敬される方は、どなたでも入会出来ますので御参拝の折、社務所にお申し出下さい。尚、郵便にても受付出来ますので、申し込み用紙を御請求頂ければ、お送りさせて頂きます。

会員の特典(抜粋)

- 一、神前にて入会報告祭が執り行われます。
- 一、誕生日には特別祈禱が行われ、神符が授与されます。
- 一、春の例大祭、秋の崇敬会大祭には御案内申し上げ、大祭特別祈禱神符及びお供え等が授与されます。
- 一、夏越、年越大祓にはご案内申し上げます、ご祈禱致します。
- 一、参拝の折、会員証を御呈示になりますと会員は昇殿参拝が許されます。

御首神社「のぼり」奉納の受付

迎春にあたり、毎年「幟」を新調致しておりますので、ご希望のお方はご一報下さい。



祭事案内

▼年越大祓 十二月三十日 午後三時

年越大祓は、半年間に知らず知らず身に受けた罪・穢れをお祓いする神事であり、皆様が罪・穢れを託された人形は、厳肅な神事のと、忌み火にてお焚き上げされます。

一年間の罪・穢れを祓い、清々しい気持ちで新しい年を、お迎え致します。

▼元旦祭 一月一日 午前〇時

新年を迎え、国の隆昌と世界平和並びに氏子崇敬者の繁栄と幸福を祈念する、元旦祭を斎行いたします。



引き続き交通安全を始め病氣平癒・健康祈願・入学試験合格祈願等の御祈禱が執り行われます。

お正月には多数ご参拝頂きますよう職員一同、心よりお待ちしております。



▼左義長 一月十五日 午前十時

神事では一年間神棚にお祀りされた御神符やお正月に飾られたメ飾り・縁起物・お守り等がお焚き上げされます。尚、ビニールやプラスチック・燃えないみかん・鏡餅はお焚上げが出来ません。又、今年から当神社が頒布しました注連縄は、お焚き上げが出来るように奉製してあります。

▼浄火祭 二月三日 午前十時

皆様方が奉納された金幣や、神棚に祀られた紅白串又祈願絵馬・祈願帽子等に心願成就を願い、お焚き上げをする祭祀であります。

▼祈年祭 二月十六日 午後三時

▼御鋏神社例祭 三月十七日 午後三時

▼例大祭 四月二日 午後三時

▼南宮神社例祭 五月四日 午後三時

▼お田植え祭 六月初旬

▼農休み祭 六月二十二日 午後三時

権禰宜 高田 豊彦

厄除開運祈禱

男子 大厄 二十五歳・四十二歳
女子 大厄 十九歳・三十三歳

古来より「大厄

には諸々の災難、身体の変調のがれ難し」といわれ、年回りに当る方のみならず御家族にまでも災禍が及び何かとままならぬことが多くなりま

す。前後三年間に渡り忌み慎まなければなりません。

御祈禱を受けられまして、毎日を平穩に過ごしましょう。

平成15年厄年に当る生れ年			
	前厄	本厄	後厄
男子	42歳 昭和 38年	昭和 37年	昭和 36年
	25歳 昭和 55年	昭和 54年	昭和 53年
女子	33歳 昭和 47年	昭和 46年	昭和 45年
	19歳 昭和 61年	昭和 60年	昭和 59年

▼本年度崇敬会よりの奉納

- 一、御首神社 幟 一對
- 一、末廣稻荷神社 幟 十対

以上有難うございました。

御首神社社務所

岐阜県大垣市荒尾町一八三の一
TEL(〇五八四)九一―三七〇〇
ホームページ www.mikubi.or.jp
Eメール syanusyo@mikubi.or.jp